

第 3 回 運行管理者模擬試験問題（貨物）

受験番号	T								
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

氏 名	
-----	--

注 意

1. これは試験問題です。問題は、1 ページから 17 ページまで **30 問**です。
2. 「試験始め」の合図と同時に、問題のページ数を確認してください。
もし、印刷の不明瞭なものやページ数が不足している場合は、直ちに試験官に申し出てください。
3. 答えは別の解答用紙に記入してください(解答欄にある該当番号の を黒く塗りつぶしてください)。その際は、各問題の設問の指示に従い、解答してください。
設問で 1 つ又は 2 つの解答を求める問題の場合は、求める数以上を解答したもの、判読が困難なものは正解としません。また、問 1、問 4、問 8、問 12、問 14、問 18、問 20、問 22 及び問 24～問 30 の各問題は、答えがすべて合っている場合のみ正解とします。
4. 参考書及び携帯電話（その他通信機器を含む）、電卓、その他計算機能があるすべてのものの使用を禁止します。
計算をする場合は、問題用紙の余白を使ってください。

1. 貨物自動車運送事業法関係

問 1 貨物自動車運送事業法の目的に関する次の文中、A、B、C、D、E に入るべき字句を次の枠内の選択肢（1～10）から選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

この法律は、貨物自動車運送事業の運営を（ A ）なものとするとともに、貨物自動車運送に関するこの法律及びこの法律に基づく措置の遵守等を図るための（ B ）による（ C ）を促進することにより、（ D ）を確保するとともに、貨物自動車運送事業の（ E ）を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. 適正かつ合理的 | 2. 主体的な活動 | 3. 輸送の秩序 |
| 4. 健全な発達 | 5. 運送事業者 | 6. 自主的な活動 |
| 7. 総合的な発達 | 8. 輸送の安全 | 9. 民間団体等 |
| 10. 健全かつ継続的 | | |

問 2 次の記述のうち、一般貨物自動車運送事業の運行管理者の業務として、正しいものを 1 つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 事業計画に従い業務を行うに必要な員数の事業用自動車の運転者を常時選任しておくこと。
2. 乗務員が有効に利用することができるように、休憩に必要な施設を整備し、及び乗務員に睡眠を与える必要がある場合にあっては睡眠に必要な施設を整備し、並びにこれらの施設を適切に管理し、及び保守すること。
3. 休憩又は睡眠のための時間及び勤務が終了した後の休息のための時間が十分に確保されるように、国土交通大臣が告示で定める基準に従って、運転者の勤務時間及び乗務時間を定め、当該運転者にこれらを遵守させること。
4. 法令の規定により、乗務員の健康状態の把握に努め、疾病、疲労その他の理由により安全な運転をし、又はその補助をすることができないおそれがある乗務員を事業用自動車に乗務させないこと。

問 3 貨物自動車運送事業の許可の取消し等に関する次の文中、A、B、C、D、E に入るべき語句の組合せとして正しいものを選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

国土交通大臣は、一般貨物自動車運送事業者が貨物自動車運送事業法若しくは同法に基づく命令若しくはこれらに基づく（ A ）若しくは道路運送法第 83 条（有償旅客運送の禁止）若しくは第 95 条（自動車に関する表示）の規定若しくは同法第 84 条第 1 項（運送に関する命令）の規定による（ A ）又は許可若しくは（ B ）に付した（ C ）に違反したときは、（ D ）以内において期間を定めて（ E ）その他の輸送施設の当該事業のための使用の停止若しくは事業の全部若しくは一部の停止を命じ、又は事業の許可を取り消すことができる。

	A	B	C	D	E
1.	処分	免許	事項	6 ヶ月	営業所
2.	指導	認可	事項	3 ヶ月	営業所
3.	処分	認可	条件	6 ヶ月	自動車
4.	指導	免許	条件	3 ヶ月	自動車

問 4 貨物自動車運送事業の事業用自動車の運転者に対する点呼（対面による点呼と同等の効果を有するものとして国土交通大臣が定めた機器による点呼を除く。）に関する次の記述のうち、正しいものを 2 つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 乗務前の点呼は、対面（運行上やむを得ない場合は電話その他の方法）により行い、①酒気帯びの有無、②疾病、疲労その他の理由により安全な運転をすることができないおそれの有無、③道路運送車両法の規定による点検の実施について報告を求め、事業用自動車の運行の安全を確保するために必要な指示をしなければならない。
2. 乗務後の点呼においては、当該乗務に係る運転者の健康状態、道路及び運行の状況について報告を求めなければならない。
3. 乗務前又は乗務後の点呼のいずれかが対面で行うことができない乗務を行う運転者に対し、当該点呼のほかに、当該乗務の途中において少なくとも 1 回電話その他の方法により点呼を行い、所定の事項について報告を求め、事業用自動車の運行の安全を確保するために必要な指示をしなければならない。
4. アルコール検知器（呼気に含まれるアルコールを検知する機器であって、国土交通大臣が告示で定めるものをいう。以下同じ。）を営業所ごとに備え、常時有効に保持するとともに、法令の規定により点呼時に酒気帯びの有無について確認を行う場合には、運転者の状態を目視等で確認するほか、当該運転者の属する営業所に備えられたアルコール検知器を用いて行わなければならない。

問 5 次の自動車事故に関する記述のうち、一般貨物自動車運送事業者が自動車事故報告規則に基づき、国土交通大臣に報告することを要するものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 事業用自動車は踏切を通過しようとして遮断機に接触し、遮断棒を折損した。
2. 事業用自動車は右折の際、原動機付自転車と衝突し、原動機付自転車の運転者に通院による30日間の医師の治療を要する傷害を生じさせた。
3. 運転者が心筋梗塞により、事業用自動車の運転を継続することができなくなった。
4. 事業用自動車は対向車と衝突し、負傷者は生じなかったが、双方の車両が損傷し、合わせて300万円の損害を出した。

問 6 貨物自動車運送事業者が事業用自動車の運行の安全を確保するために事業用自動車の運転者に対して行う指導及び監督に関する次の文中、A、B、C、D、Eに入るべき語句の組合せとして正しいものを選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 貨物自動車運送事業者は、国土交通大臣が告示で定めるところにより、当該貨物自動車運送事業に係る主な（ A ）その他の事業用自動車の運行に関する状況、その状況の下において事業用自動車の運行の安全を確保するために必要な（ B ）及び法令に基づき自動車の運転に関して遵守すべき事項について、運転者に対する適切な指導及び監督をしなければならない。この場合においては、その日時、場所及び内容並びに指導及び監督を行った者及び受けた者を記録し、かつ、その記録を営業所において（ C ）保存しなければならない。
2. 一般貨物自動車運送事業者等は、国土交通大臣が告示で定めるところにより、次に掲げる運転者に対して、事業用自動車の運行の安全を確保するために遵守すべき事項について特別な指導を行い、かつ、国土交通大臣が認定する（ D ）を受けさせなければならない。
 - 一 死者又は負傷者（自動車損害賠償保障法施行令第5条第二号、第三号又は第四号に掲げる傷害を受けた者をいう。）が生じた事故を引き起こした者
 - 二 運転者として新たに雇い入れた者
 - 三 高齢者（（ E ）以上の者をいう。）

	A	B	C	D	E
1. 経過地点	経過地点	運転のための知識	1年間	適性診断	65才
2. 道路の状況	道路の状況	運転の技術	3年間	適性診断	65才
3. 経過地点	経過地点	運転のための知識	3年間	特別講習	70才
4. 道路の状況	道路の状況	運転の技術	1年間	特別講習	70才

問 7 一般貨物自動車運送事業者が運転者に記録させる乗務等の記録に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 乗務の開始及び終了の地点及び日時並びに主な経過地点及び貨物を積載して運行した距離を記録させなければならない。
2. 乗務等の記録を運行記録計による記録に代えた場合においては、当該記録すべき事項のうち運行記録計により記録された事項以外の事項を運行記録計による記録に付記させなければならない。
3. 両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上の普通自動車である事業用自動車に乗務した場合にあっては、積載している貨物の荷主の氏名又は名称を記録させなければならない。
4. 乗務等の記録は、3年間保存しなければならない。

問 8 一般貨物自動車運送事業者の運行管理者等の選任に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 一の営業所において複数の運行管理者を選任する一般貨物自動車運送事業者等は、それらの業務を統括する統括運行管理者を選任しなければならない。
2. 一般貨物自動車運送事業者等は、運行管理者資格者証を有する者又は国土交通大臣が認定する講習を修了した者のうちから、運行管理者の業務を補助させるための補助者を選任しなければならない。
3. 事業用自動車65両（うち、運行車4両及び被けん引自動車5両）の運行の管理をする営業所において、運行管理者が3名選任されているが、事業用自動車25両（うち、運行車1両及び被けん引自動車5両）を増車する場合、運行管理者の追加選任を要しない。
4. 国土交通大臣は、資格者証の交付を受けている者が貨物自動車運送事業法若しくは同法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したときは、当該運行管理者を選任した一般貨物自動車運送事業者に対し、その資格者証の返納を命ずることができる。

2. 道路運送車両法関係

問 9 次の記述のうち、道路運送車両法の目的として正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 道路運送車両に関し、使用権についての公証等を行うこと。
2. 道路運送車両に関し、公害の防止その他の環境の保全を図ること。
3. 道路運送車両に関し、整備についての知識の普及を図ること及び自動車の製造事業の健全な発達に資すること。
4. 道路運送車両に関し、耐久性の確保を図ること。

問 10 道路運送車両法第46条に定める「保安基準の原則」に関する次の文中、A、B、C、D、Eに入るべき字句を次の枠内の選択肢（1～10）から選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

自動車の構造及び自動車の装置等に関する（ A ）又は公害防止その他の環境保全上の技術基準（「保安基準」という。）は、道路運送車両の構造及び装置が（ B ）に十分堪え、操縦その他の使用のための作業に（ C ）であるとともに、通行人その他に（ D ）を与えないことを確保するものでなければならず、かつ、これにより製作者又は使用者に対し、自動車の製作又は使用について（ E ）な制限を課することとなるものであってはならない。

- | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 安全 | 2. 容易 | 3. 保安上 | 4. 不利益 | 5. 不当 |
| 6. 危害 | 7. 整備上 | 8. 運行 | 9. 衝撃 | 10. 過度 |

問 11 事業用自動車の日常点検基準に関する次の記述のうち、走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に点検を行うことで足りるものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. ブレーキの液量が適当であること。
2. タイヤの空気圧が適当であること。
3. タイヤの溝の深さが十分であること。
4. 灯火装置及び方向指示器の点灯又は点滅具合が不良でなく、かつ、汚れ及び損傷がないこと。

問 12 道路運送車両の保安基準及びその細目を定める告示に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 自動車は、告示で定める方法により測定した場合において、長さ（セミトレーラにあっては、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離）12メートル、幅2.5メートル、高さ3.8メートルを超えてはならない。
2. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上のものの原動機には、自動車が時速100キロメートルを超えて走行しないよう燃料の供給を調整し、かつ、自動車の速度の制御を円滑に行うことができるものとして告示で定める基準に適合する速度抑制装置を備えなければならない。
3. 自動車の前面ガラス及び側面ガラス（告示で定める部分を除く。）は、フィルムが貼り付けられた場合、当該フィルムが貼り付けられた状態において、透明であり、かつ、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が60%以上であることが確保できるものでなければならない。
4. 自動車に備える走行用前照灯及びすれ違い用前照灯の灯光の色は、白色であること。

3. 道路交通法関係

問 13 道路交通法に定める最高速度違反行為に関する次の文中、A、B、C、D、Eに入るべき語句の組合せとして正しいものを選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

自動車の運転者が最高速度違反行為を当該自動車の使用者（当該自動車の運転者であるものを除く。）の（ A ）に関してした場合において、当該最高速度違反行為に係る自動車の使用者が当該自動車につき最高速度違反行為を防止するため必要な（ B ）の管理を行っていると認められないときは、当該自動車の使用の本拠の位置を管轄する（ C ）は、当該自動車の使用者に対し、最高速度違反行為となる運転が行われることのないよう運転者に指導し又は（ D ）することその他最高速度違反行為を防止するため必要な措置をとることを（ E ）することができる。

	A	B	C	D	E
1.	業務	運行	警察署長	監督	勧告
2.	責務	乗務	公安委員会	監督	勧告
3.	責務	乗務	警察署長	助言	指示
4.	業務	運行	公安委員会	助言	指示

問 14 追越し等に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 車両は、道路標識等により追越しが禁止されている道路の部分において、前方を進行している原動機付自転車を追い越してはならない。
2. 車両は、道路のまがりかど付近、勾配の急な上り坂又は勾配の急な下り坂の道路の部分においては、他の車両（軽車両を除く。）を追い越してはならない。
3. 車両は、トンネル内においては、車両通行帯の設けられた道路の部分において、他の車両（軽車両を除く。）を追い越してはならない。
4. 車両は、法令に規定する優先道路を通行している場合における当該優先道路にある交差点を除き、交差点の手前の側端から前に30メートル以内の部分においては、他の自動車を追い越してはならない。

問 15 道路交通法に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 車両は、他の車両を追い越そうとするときは、その追い越されようとする車両（以下「前車」という。）の右側を通行しなければならない。ただし、前車が法令の規定により右折をするため道路の中央又は右側端に寄って通行しているときは、前車を追い越してはならない。
2. 車両は、左折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、できる限り道路の左側端に沿って（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分を通行して）徐行しなければならない。
3. 自動車、原動機付自転車又はトロリーバスは、一方通行となっている道路において右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の右側端に寄り、かつ、交差点の中心の内側（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分）を徐行しなければならない。
4. 車両は、法令の規定により駐車する場合に当該車両の右側の道路上に3.5メートル（道路標識等により距離が指定されているときは、その距離）以上の余地がないこととなる場所においては、駐車してはならない。

問 16 車両等の運転者が道路交通法令の規定に違反した場合等の措置に関する次の文中、A、B、C、D、Eに入るべき語句の組合せとして正しいものを選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

車両等の運転者が道路交通法若しくは同法に基づく命令の規定又は同法の規定に基づく（ A ）に違反した場合において、当該違反が当該違反に係る車両等の（ B ）の（ C ）に関してなされたものであると認めるときは、（ D ）は、内閣府令で定めるところにより、当該車両等の（ B ）が道路運送法の規定による自動車運送事業者、貨物利用運送事業法の規定による第二種貨物利用運送事業を営業者であるときは当該事業者及び（ E ）に対し、当該違反の内容を通知するものとする。

- | | A | B | C | D | E |
|----|----|-----|----|-------|--------------|
| 1. | 処分 | 使用者 | 業務 | 公安委員会 | 当該事業を監督する行政庁 |
| 2. | 条件 | 所有者 | 指示 | 警察署長 | 当該事業を監督する行政庁 |
| 3. | 条件 | 使用者 | 業務 | 警察署長 | 当該事業者の運行管理者 |
| 4. | 処分 | 所有者 | 指示 | 公安委員会 | 当該事業者の運行管理者 |

問 17 次に掲げる標識のある道路における通行に関する各々の記述について、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1.  道路における車両の通行につき一定の方向にする通行が禁止される道路において、車両がその禁止される方向に向かって進入することができない。
2.  車両総重量が 7,980 キログラム、最大積載量が 4,000 キログラムの中型自動車は通行することができない。
3.  車両は横断(道路以外の施設又は場所)に出入するための左折を伴う横断を除く。)することができない。
4.  車両総重量が 5,500 キログラムの車両は通行することができる。

4. 労働基準法関係

問 18 労働基準法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 労働基準法で定める基準に達しない労働条件を定める労働契約は、その全部について無効とする。この場合において、無効となった労働条件は、労働基準法で定める基準による。
2. 使用者は、労働契約の締結に際し、労働者に対して賃金、労働時間その他の労働条件を明示しなければならない。この場合において、賃金及び労働時間に関する事項その他の厚生労働省令で定める事項については、厚生労働省令で定める方法により明示しなければならない。
3. 労働契約の締結に際し、使用者から明示された労働条件が事実と相違する場合においては、労働者は、即時に労働契約を解除することができる。
4. 使用者は、労働者の貯蓄金をその委託を受けて管理しようとする場合においては、当該事業場に、労働者の過半数で組織する労働組合があるときはその労働組合、労働者の過半数で組織する労働組合がないときは労働者の過半数を代表する者との書面による協定をすれば、これを行政官庁に届け出ることを要しない。

問 19 労働基準法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 使用者は、労働時間が6時間を超える場合においては少なくとも45分、8時間を超える場合においては少なくとも1時間の休憩時間を労働時間の途中に与えなければならない。
2. 使用者は、4週間を通じ8日以上の日を与える場合を除き、労働者に対して、毎週少なくとも2回の休日を与えなければならない。
3. 使用者は、当該事業場に、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、労働者の過半数で組織する労働組合がない場合においては使用者が指名する労働者との書面による協定をし、これを行政官庁に届け出た場合においては、法定労働時間又は法定休日に関する規定にかかわらず、その協定で定めるところによって労働時間を延長し、又は休日に労働させることができる。
4. 使用者は、その雇入れの日から起算して3ヵ月間継続勤務し全労働日の8割以上出勤した労働者に対して、継続し、又は分割した5労働日の有給休暇を与えなければならない。

問 20 労働基準法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 未成年者は独立して賃金を請求することができる。親権者又は後見人は、未成年者の賃金を代って受け取ってはならない。
2. 使用者は、満 18 歳以上の男性を交替制によって使用する場合その他法令で定める場合を除き、満 20 歳に満たない者を午後 10 時から午前 5 時までの間において使用してはならない。
3. 使用者は、産後 10 週間を経過しない女性を就業させてはならない。ただし、産後 8 週間を経過した女性が請求した場合において、その者について医師が支障がないと認めた業務に就かせることは、差し支えない。
4. 生後満 1 年に達しない生児を育てる女性は、労働基準法で定める所定の休憩時間のほか、1 日 2 回各々少なくとも 30 分、その生児を育てるための時間を請求することができる。

問 21 労働基準法に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 使用者は、労働基準法及びこれに基づく命令の要旨、就業規則、時間外労働・休日労働に関する協定等を、常時各作業場の見やすい場所へ掲示し、又は備え付けること、書面を交付することその他の厚生労働省令で定める方法によって、労働者に周知させなければならない。
2. 使用者は、事業場ごとに労働者名簿を、各労働者（日々雇い入れられる者を除く。）について調製し、労働者の氏名、生年月日、履歴その他厚生労働省令で定める事項を記入しなければならない。
3. 使用者は、事業場ごとに賃金台帳を調製し、賃金計算の基礎となる事項及び賃金の額その他厚生労働省令で定める事項を賃金支払の都度遅滞なく記入しなければならない。
4. 使用者は、労働者名簿、賃金台帳及び雇入、解雇、災害補償、賃金その他労働関係に関する重要な書類を 1 年間保存しなければならない。

問 22 貨物自動車運送事業の「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(以下「改善基準」という。)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 運転時間は、2日(始業時刻から起算して48時間をいう。)を平均し1日当たり10時間、2週間を平均し1週間当たり48時間を超えないものとする。
2. 労使当事者は、時間外労働協定において貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者に係る一定期間についての延長時間について協定するに当たっては、当該一定期間は、2週間及び1ヵ月以上3ヵ月以内の一定期間とするものとする。
3. 使用者は、貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者の休息期間については、当該自動車運転者の住所地における休息期間がそれ以外の場所における休息期間より長くなるように努めるものとする。
4. 使用者は、貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者に労働基準法第35条の休日に労働させる場合は、当該労働させる休日は4週間について3回を超えないものとし、当該休日の労働によって改善基準第4条第1項に定める拘束時間及び最大拘束時間の限度を超えないものとする。

問 23 下表は、貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者の1ヵ月の拘束時間の例を示したものであるが、このうち、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」に適合しているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。ただし、「1ヵ月についての拘束時間の延長に関する労使協定」があるものとし、年間の拘束時間は違反していないものとする。

1.

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
拘束時間	293時間	300時間	294時間	297時間	255時間	272時間	320時間	293時間	310時間	295時間	256時間	297時間

2.

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
拘束時間	284時間	315時間	293時間	322時間	239時間	256時間	298時間	270時間	294時間	260時間	295時間	268時間

3.

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
拘束時間	294時間	239時間	277時間	300時間	284時間	297時間	291時間	293時間	294時間	295時間	256時間	320時間

4.

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
拘束時間	293時間	300時間	255時間	297時間	277時間	300時間	262時間	295時間	310時間	239時間	295時間	300時間

5. 実務上の知識及び能力

問 24 事業用自動車の運転者の健康管理に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。

1. 近年、脳卒中や心臓病などに起因した運転中の突然死による事故が増加傾向にあるが、この脳卒中や心臓病などは病気の原因が生活習慣に関係していることから生活習慣病と呼ばれており、暴飲暴食や運動不足などの悪習慣が積み重なって発病するといわれているので、運転者に対し定期的な健康診断の結果に基づいて生活習慣の改善を図るなど適切な健康管理を行うことの重要性を理解させるよう指導する必要がある。
2. 漫然運転や居眠り運転の原因の一つとして、睡眠時無呼吸症候群と呼ばれている病気がある。この病気は、狭心症や心筋梗塞などの合併症を引き起こすおそれはないが、安全運転を続けていくためには早期の治療が不可欠であることから、運転者に対し睡眠時無呼吸症候群の症状などについて理解させるよう指導する必要がある。
3. かぜ薬や解熱剤には、眠気を誘う成分が含まれているものがあるので、乗務前にかぜ薬や解熱剤を服用する場合には、眠気を誘う成分が含まれていないものを選ぶよう運転者に対し指導することが必要である。万が一、運転者が眠気を誘う成分が含まれているかぜ薬等を服用した場合には、運転を見台わせることも必要である。
4. 常習的な飲酒運転の背景には、アルコール依存症という病気があるといわれているが、この病気は専門医による早期の治療をすることにより回復が可能とされており、一度回復すると飲酒しても再発することはないことから、アルコール依存症から回復した運転者に対しては、飲酒に関する指導を行う必要はない。

問 25 悪条件下の運転等に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。

1. 薄暮時には事故が多く発生するので、早めにライトを点灯し、他の自動車や歩行者等に自分の自動車の存在を知らせるようにする。
2. 霧が発生したときは視界が悪くなるので、前照灯を上向きに点灯して、センターラインやガードレール、直前の自動車の尾灯を目安にし、速度を落として慎重な運転をするようにする。
3. 夜間の走行中には、自分の自動車と対向車のライトで、道路の中央付近の歩行者が見えなくなることがあるので、このような現象に注意するようにする。このような現象を蒸発現象という。
4. 明るさが急に変わると、視力は一時急激に低下することから、トンネルに入る前や出るときは速度を落とす必要がある。

問 26 自動車運転中の人間の視覚と視野等に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。

1. 自動車の速度が速くなるほど、運転者の視野は狭くなり、近くを注視するようになるため遠くは見えにくくなることから、比較的遠くにある障害物等の発見が遅れることがある。
2. 前方の自動車を大型車と乗用車から同じ距離で見た場合、それぞれの視界や見え方が異なり、運転者席が高い位置にある大型車の場合は車間距離に余裕がないように感じ、乗用車の場合は車間距離に余裕があるように感じやすくなる。
3. 夜間、対向車線の自動車のヘッドライトを直接目に受けると、まぶしさのために一瞬視力を失った状態（眩惑）になるので、対向車のライトがまぶしいときは、視点をやや左前方に移して、目がくらまないようにする。
4. 暗いところから急に明るい場所へ出ると、最初はまぶしくてよく見えないが、しばらくすると目が慣れて、通常どおり見えるようになる。反対に明るい場所から急に暗いところへ入ったときも、最初は何も見えないが、やがて少しずつ見えるようになる。このような視力の回復機能を順応という。

問 27 交通事故等緊急事態に関する次の記述のうち、事業用自動車の運転者の措置として適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。

1. 踏切内で自動車が故障して運転できなくなり、立ち往生してしまったときには、すみやかに自動車を踏切の外に移動させることが必要であることから、列車が接近し、視認できるようになるまでは自動車を踏切の外に移動することに努め、移動が困難と判断したときは、列車の運転士に、警報機が備えられている踏切では、踏切支障報知装置（踏切非常ボタン）を活用し、踏切支障報知装置が備えられていない踏切においては、自動車に備えられている非常信号用具等を使用して、踏切内に自動車が立ち往生していることを知らせる。
2. 運転者は、中型トラックで道幅の広い幹線道路を走行中、大地震が発生したので当該トラックを左側の路肩に寄せ停車させ様子を見ていた。この地震により道路等が損壊し車両の通行が困難となったので、当該運転者は当該トラックを道路外に移動させてから避難しようとしたが、道路等の状況から当該トラックを適当な場所に移動させることが困難であったため、やむを得ず停車した場所に当該トラックを置いて避難した。避難の際、エンジンを止め、盗難を防止するため、エンジンキーを抜き、窓を閉め、ドアを確実にロックして当該トラックから離れた。
3. 事業用自動車の運転者が運転中、オートバイと接触事故を起こしオートバイが転倒して運転者が路上に投げ出された。オートバイの運転者が足を負傷し自力で動けなかったので、当該運転者の安全を確保するため歩道に移動させた。双方の事故車両については、事故現場となった道路は車両の往来が激しいため、当該道路における危険を防止する必要があると考え、道路脇の空き地に移動させ、警察官に事故について報告した。
4. 昼間、事業用自動車の運転者が高速道路を走行中、アクセルを踏んでも速度が上がらず徐々にスピードが落ちてきて今にも停止しそうになったため、やむを得ず当該自動車が停車することができる幅のある路側帯に停車させ、昼間用の停止表示器材を当該自動車の後方に置いて、後続車両に駐車していることを知らせるとともに、非常電話で当該自動車の移動を依頼した。

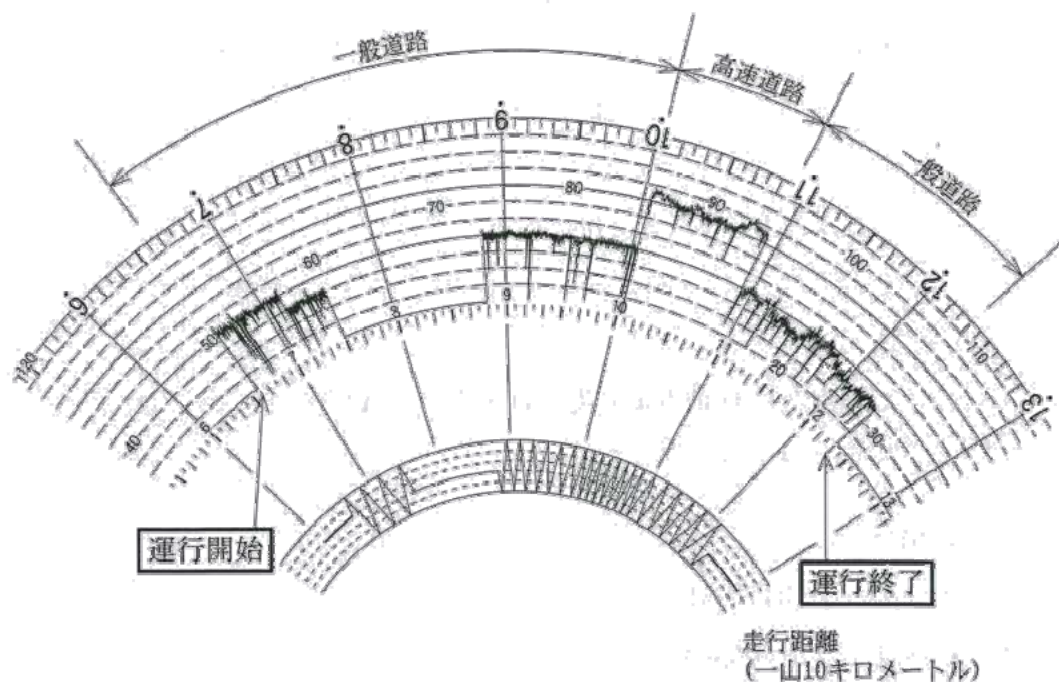
問 28 運行管理の意義、運行管理者の役割等に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。

1. 運行管理者が行う運転者に対する指導及び監督について、道路の状況その他の事業用自動車の運行に関する状況等に応じて日々の運行のたびごとに実施すべき事項については、点呼において実施し、また、計画的及び体系的に実施すべき事項については、基本的な計画を作成したうえで実施する必要がある。
2. 運行管理者は、運転者の健康状態に起因する事業用自動車の事故を防止するため、運転者に対し、疾病が交通事故の要因となるおそれがあることを理解させ、事業者が行う医師による定期的な健康診断の結果に基づいて生活習慣の改善を図るなど適切な健康管理を行うことの重要性を理解させる必要がある。
3. 運行管理者は、過労運転による事故の防止を図るため、運転者ごとに乗務の実績を集計、分析し、運転者の疲労の度合い、個人の能力などに十分配慮して各運転者が適切に乗務できるように努める必要がある。
4. 事業者が、事業用自動車の定期点検を怠ったことが原因で重大事故を起こしたことにより、行政処分を受けることになった場合、運行管理者は当該重大事故を含む運行管理業務上に一切問題が無くても、事業者に代わって事業用自動車の運行管理を行っていることから、事業者に対する行政処分とともに、運行管理者も運行管理者資格者証の返納を命じられることがある。

問 29 点呼の実施に関する次の記述のうち、運行管理者の業務上の措置として、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。

1. 乗務前の点呼における事業用自動車の日常点検の実施結果については、事業用自動車に不具合があった場合、乗務する運転者から運行管理者に必ず報告するよう徹底しているが、当該点検において不具合もなく何も問題がなければ運転者からこの報告を求めないこととしており、報告がない場合は「異常なし」との報告があったものとして、点呼記録表の点検結果の欄に「良」として記載している。
2. 乗務後の点呼において、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について報告を求めたところ、運転者から「特に問題はなかった。」との報告を受けた。運転者の酒気帯びの有無については、乗務前の点呼において、酒気帯び状態でないことを目視等及びアルコール検知器で確認しているが、乗務後の点呼においても同様に、運行管理者はその有無について確認をした。
3. A 営業所（輸送の安全の確保に関する取組が優良であると認められる営業所には該当しない。）の運転者による往復 2 日間にわたる運送業務において、初日の乗務を B 営業所（同じ事業者の営業所）で終了する際の乗務後の点呼を B 営業所の運行管理者が行い、点呼記録表にその結果を記録した。また、翌日の乗務を開始する際の乗務前の点呼を、前日と同様に B 営業所の運行管理者が行った後、A 営業所の運行管理者に異常がなかったことを連絡した。
4. 点呼は運行管理者が行うこととされているが、運行管理者の勤務体制上そのすべてを運行管理者が行うことが困難な場合もあることから、一般貨物自動車運送事業者が選任する運行管理者の補助者に点呼の一部を行わせている。運行管理者は、当該補助者に対し点呼の実施方法、実施内容の報告を求める等適切な指導及び監督を行っている。

問 30 下図は、最大積載量 9,000 キログラム、車両総重量が 18,500 キログラムの貨物の運送の用に供する普通自動車である事業用自動車に備えられた運行記録計の記録を示したものであるが、下図に記録された当該自動車の運行を解析した次の記述のうち、正しいものをすべて選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。ただし、ここで運行した一般道路及び高速自動車国道（以下「高速道路」という。）は道路標識等により最高速度が指定されていないものとする。



1. 一般道路の走行において、最高速度違反が見られる。
2. 高速道路の走行において、最高速度違反は見られない。
3. 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」に定める連続運転時間の違反は見られない。
4. 運行開始から運行終了までの走行距離は 239 キロメートルである。